



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師上ル七観音町637 第41長栄
カーニープレス四條烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 久保 佐世

主な内容

14年診療報酬改定ごみる(巻内料) (2面)
地区医師会との懇談(西京 相楽) (3面)
リハセン病院廃止条例が成立 (4面)

ご用命はアミスまで

- ◆医師賠償責任保険
- ◆休業補償制度(所得補償、傷害疾病保険)
- ◆針刺し事故等補償プラン
- ◆自動車保険・火災保険

☎075-212-0303

医の倫理 取組の呼びかけ

次の世代へ伝えるため今こそ過去の過ちと向き合い検証を

協会などは2015年に開催される「第29回日本医学会総会2015 関西」の開催を契機に、広く医の倫理について議論する気運を高めよう。と、医の倫理―過去・現在・未来―企画実行委員会(日本医学会総会2015関西)にむけて、を結成した「第2088号(既報)」。以下、結成にあたっての趣意書を全文掲載する。なお、実行委員会への参加は関西圏を中心に広く全国一円に呼びかけており、現在、実行委員が39人、賛同が28人となっている(4月14日現在)。

設立趣意書

2014年1月12日

「第29回日本医学会総会2015 関西」が京都を中心に開かれます。「医療、健康の問題は、医学と医療の革新を目標として健康社会を共に生

「第29回日本医学会総会2015 関西」が京都を

「医療、健康の問題は、医学と医療の革新を目標として健康社会を共に生

「IPS細胞の研究は驚くべきスピードで進んでいるが、良いことばかりではなく新しい問題も発生している。新しい科学技術には倫理問題も伴う。何をどう受け入れるのか、答えを出すのは社会です」と指摘されています。



代表 垣田 さち子

人間の細胞から精子や卵子が作られ、豚の体内で人間の臓器を作ることにも可能になる一方で、胚や胎児の段階から出生の取捨選択が可能になるなど、生命そのものを操作、選択できる時

りや誘惑は理解できないで、もたないが、デオバンやJ-ADNIをめぐる意図的データ改竄は目先の企業利益優先の愚挙である。この

がいつまでも保険収載されなくなると誰がどこで審査・承認し、どれほどの有効・安全データが要件か、闇の中である。国内未承認の抗がん剤が端緒とは思われるが、それに留まらなくなる。「トクホ」程度の飲料水が「治療薬」と成りかねない。投薬で重篤な副作用が出て患者が同意の上として責任は不問に付され

ることは、極めて安易で危険な、真の国民利益には反する暴挙である。

主張

STAP細胞 生命科学の現在がある。他論文の剽窃(コピペ)もオリジナリティが問われる研究者として失格であるが、標準やデータの杜撰な処理・加工は捏造に等しい。この問題の根底には、日本における基礎研究軽視(科研究を中心とした貧弱な国家予算等)の過去と、手掌を返してアベノミクス第三の矢の目玉に祭り上げられた

生命科学研究の現在がある。「健康医療戦略室」傘下で、基礎研究や医療を短期間に儲かり商品に結びつける国家戦略が策定された。例えば再生医療と周辺産業だけで、2020年には現在の10倍、30年には100倍(1.5兆円)の国内市場が要請され、13年度補正および14年度予算では理化学研究所発生・再生科学総合研究センターに約30億円を

報酬や名譽は、今日熾烈な国際競争に晒されている。論文受付け数秒の差で特許権や企業化による莫大な富を得、また逸す。研究者の焦

ような不正・捏造による日本の基礎研究に対する著しい信頼失墜は、一企業の利益や国家成長戦略の儲けなど吹き飛ばす国益の損失と

承認の「葉」でも患者の同意が得られれば、保険併用が認められる選択療養である。効果が十分認められな

い診療行為は対象外とされ

ることは、極めて安易で危険な、真の国民利益には反する暴挙である。

ることは、極めて安易で危険な、真の国民利益には反する暴挙である。

ることは、極めて安易で危険な、真の国民利益には反する暴挙である。

STAP細胞「騒動」に想う 医学・医療を「儲かりのシーズ」とする愚かさ

STAP細胞 生命科学の現在がある。他論文の剽窃(コピペ)もオリジナリティが問われる研究者として失格であるが、標準やデータの杜撰な処理・加工は捏造に等しい。この問題の根底には、日本における基礎研究軽視(科研究を中心とした貧弱な国家予算等)の過去と、手掌を返してアベノミクス第三の矢の目玉に祭り上げられた

生命科学研究の現在がある。「健康医療戦略室」傘下で、基礎研究や医療を短期間に儲かり商品に結びつける国家戦略が策定された。例えば再生医療と周辺産業だけで、2020年には現在の10倍、30年には100倍(1.5兆円)の国内市場が要請され、13年度補正および14年度予算では理化学研究所発生・再生科学総合研究センターに約30億円を

報酬や名譽は、今日熾烈な国際競争に晒されている。論文受付け数秒の差で特許権や企業化による莫大な富を得、また逸す。研究者の焦

ような不正・捏造による日本の基礎研究に対する著しい信頼失墜は、一企業の利益や国家成長戦略の儲けなど吹き飛ばす国益の損失と

承認の「葉」でも患者の同意が得られれば、保険併用が認められる選択療養である。効果が十分認められな

い診療行為は対象外とされ

ることは、極めて安易で危険な、真の国民利益には反する暴挙である。

ることは、極めて安易で危険な、真の国民利益には反する暴挙である。

日本医学会総会2015関西 連動企画

医の倫理 ―過去・現在・未来―

- プレ企画 in 京都
 - 5月3～6日 ハルビン視察旅行
 - 8月31日(日) 医の倫理ゼミ「過去 戦争と医学」
 - 9月28日(日) 医の倫理ゼミ「現在 社会と医学」
 - 10月26日(日) スペシャル対談「これからの日本の医学 ―過去・現在・未来―を語る」
田中優子さん(法政大学総長)を囲んで
 - 11月23日(日) 医の倫理ゼミ「未来 経済と医学」
- ※その他、関西一円の協会でプレ企画に取り組む予定

医学会総会並行企画 (15年4月12日)

- パネル展示「戦争と医の倫理」
- 国際講演会「フランク・シュナイダー ドイツ精神医学精神療法師学会(DGPPN)前会長を招いて」
- パネルディスカッション「日本の医の倫理を語る―過去・現在・未来―」

医	界
寸	評

4月1日 施行され た診療報酬の改定、消費税増税という嵐のせいで忘れかけていたが、13年12月6日に成立した「特定秘密保護法」について、新聞を始めたマスコミは「こういう法律が議論されるときには国民の「知る権利」を根拠に反対の立場でキャンペーンをしていたが、かつては世論をかなり誘導できていたと思う。しかし今回は、この法律ができて困るのはマスコミだけだろう」という意見がインターネットを中心によく見られた▼小泉医療制度改革の際に、我々が一所懸命反対しても自分たちの利益のために運動をしているように言われた姿とダブる。「日本はスパイ天国」などという意見もあり、ナシヨナリズムに根ざした意識が高揚したのも先に述べた意見が出てきた原因かもしれない▼